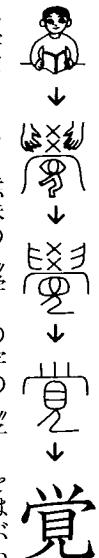


# 覚

四年 筆順 画数 12  
オノ カク おばえる・さします・める 覚

成り立ち



「学ぶ」という意味の「学」の字の「子」をはぶいた「見」と「見」と組み合わせて作った字です。

「見」で「学ぶ」という意味の字で、「見た物事を「おぼえる」ことを」表したもので。

「学習」は、「よく見て『おぼえる』こと」がたいせつだということを表した字です。

「よくわかる」という意味から「さとる」「さめる」という意味にも使われます。例 覚悟、自覚、覚醒。

また、「感覚」の意味にも使われます。例 視覚、聴覚、味覚、錯覚。

**完**

四年 画数 7  
筆順 オン カン  
ウン 宇完

成り立ち



人の頭という意味から「もと」という意味に使われている「元」と、家の形を表し、「家」という意味に使われる「宀」とを組み合させて作った字です。

「元」ができるがっている家」という意味の字で、そういう家は「終わりを「まとうする」ことができる」とから、「まとうする（終わりまでりっぱにやりとげること）」という意味に使われます。例 完成、完勝。

また、「すっかり終わる」という意味にも使います。例 完了、完納。

使い方

△ハツとして夢から覚めたが、もう夢の中身は覚えていなかった。  
△運動会で、リレーの選手になりました。びりになるのを覚悟で、夢中で走つたら、思いがけず、二位になりました。

熟語例

△覚悟（心をきめること。もともとは「さとる」という意味のことばでした。「覚悟をきめたら、心の中がすつきりした」などというふうに、つかいます。）  
△自覚（自分について、はつきりとさとること。「君は、自分がよくないという自覚がないから、ダメだ」などというふうに、つかいます。）

△覚醒（目が覚めること。また、迷いを覚ますことにもつかいます。「この世は仮の世界だと覚醒した」などと、いうふうに、つかいます。）  
△視覚（目でものを見る感覚。「視覚が失われると、ほかの感覚が鋭くなる」などというふうに、つかいます。）

△錯覚（かんちがいすること。「目の錯覚」などというふうに、つかいます。）  
△宿題を完全にやり終えてから、友だちと遊びに行きました。  
△宿題を完全にやり終えてから、友だちと遊びに行きました。

使い方

△完成（完全にできあがること。「工事が完成して、立派な体育馆ができあがった」などというふうに、つかいます。）  
△完勝（完全に勝つこと。全部、勝つこと。「ぼくたちの野球チームは、九勝ゼロ敗で、完勝した」などというふうに、つかいます。）  
△完了（すっかり終わること。「準備が完了した」などと、いうふうに、つかいます。）

△完納（すっかり納めること。「税金を完納したので、ほつとした」などというふうに、つかいます。）